

ふじさわSDGs共創パートナー取組実績報告書

2024 年度の実績を次のとおり報告します。

報告日 2025年6月10日

企業・団体名	相鉄・チームふじさわ共同企業体 (代表企業：相鉄企業(株)、構成企業：(有)工匠、(株)キャリアドライブ、(株)エムワイ)
--------	--

No	具体的な取組内容	2025年度の実績
1	【働き方相談室（キャリアカウンセリング）】 毎週4日間（水、木、金、日曜日に9:30～17:30の間に1回50分の予約制にて実施しました。 現在、働かれている方や求職活動の方、女性を中心とした復職を考えている方だけではなく、就職氷河期世代や障がいのある方、役職定年や定年等をむかえるミドル・シニア世代にキャリアカウンセリング実施。今期はキャリアコンサルタントを1名増員することで、女性に特化した就職・転職サポートに力を入れ、ハローワーク藤沢や藤沢商工会議所と連携強化いたしました。	・今までの幅広い対象の方々に加え、孤独・孤立（ひきこもりの方）の支援を実施してまいります。 ・さらにキャリアコンサルタントを1名増員して週末の予約待ちを解消いたします。
2	【すべての利用者のための開かれた施設づくり】 ・高齢者や介助を必要とする方に安心して施設を利用いただくために、「サービス介助ハンドブック」、「心のバリアフリーハンドブック」を受付・運営係が常に閲覧できる場所に継続的に配置をしました。 ・受付・運営係は、社内で月1回配信される「サステナビリティ通信」の事例を通して経済発展・社会開発・環境保護を学んだり、環境に対する取り組みと人権に対する考え方について理解を深めるため動画視聴研修を実施しました。また、カスタマーハラスメントに関して違法行為例、クレーム対応例等を書面に学んだ。 ・設備・清掃係を対象に年1回、社内研修ならびに清掃従事者研修を実施し、人権感覚や清掃技術を磨きました。 ・ふじさわジェンダー平等プラン2030に記載されている「共に生き、共に創ろう、未来につなぐ、ジェンダー平等のまち“ふじさわ”」に努め、清掃係のユニフォームをピンク色からブルーに変更し引き続き、ジェンダーに対応できるようにしている。また、3+3CAFE((株)エムワイ)のウェディング事業も引き続きLGBTQ婚の受け入れをしている。	・引き続き、高齢者や介助を必要とする方など全ての人をやさしくサポートし、安心して施設を利用していただくよう施設の運営を継続し、ホスピタリティの向上、サステナビリティの取り組みも継続します。 ・引き続き、社内研修や清掃従事者研修を実施する予定に加えて、当施設内の現場での清掃指導でよりクオリティの高い清掃技術向上を目指します。
3	【環境配慮】 ・リサイクル(Recycle)として ①リサイクルコピーペーパー古紙配合率100%(エコマーク商品)を使用しました。 ②施設内で出たゴミは徹底して分別し、ゴミの減量とリサイクルを図っています。また廃棄に使用するゴミ袋をリサイクル率99%以上のゴミ袋を使用し環境に配慮しております。 ③3+3カフェ((株)エムワイ)では、グループとして神奈川で伐採される間伐材(杉)を使用したお弁当箱、コースター、エコバック、タンブラー、服などオリジナルグッズを販売し、一部を寄付しています。 ・リデュース (Reduce) として ①作業車は新車とせず、リースにしています。 ②3+3カフェ((株)エムワイ)ではペーパーレスを推進し、業者への発注をFAXからインフォマートとメールに切り替え運用している。 ③プラスチック製品の使用を極力控え、テイクアウト容器は紙や木製の物を使用しています。 ④地元の有機的契約農家と提携し、食材の仕入れをしました。また規格外(傷物や曲がってしまった物など)の野菜も積極的に仕入れ、本日限定メニューや料理教室などのイベントで食材を使用することでフードロス削減に取り組んでいます。また、店舗で出るコーヒー豆のカスを廃棄せず、肥料化とし活用しています。 ⑤エムワイグループで牛を1頭で仕入れていますが焼肉で使用する部位と煮込みで使う部位、挽肉としての部位など余す所なく各店舗で提供しています。 ⑥フードロスもさることながら、1つの食材を工夫して使い切る取り組みをしています。持続可能な環境づくりに取り組みました。フェアトレード商品への意識を持つ。 ・リユース (Reuse) として ①清掃用タオルなどを捨てずに再利用しゴミの減量に努めました。 ②契約農家からの定期的な仕入れでは資材のゴミを出さないようにコンテナを使用したり、無農薬野菜の皮や営業では使わない部分を煮出して野菜出汁として使用しています。	・リサイクルコピーペーパー及びリサイクル率99%以上のゴミ袋の使用を引き続き行う。 ・3+3カフェ((株)エムワイ)では ①引き続き、食材を使い切る工夫をエムワイグループ全体で行きたいと考えています。 ②契約農家からは、率先して規格外の野菜や食材を仕入れます。 ③2025年度の「脱プラアクション」として、テイクアウト容器を極力天然素材の物を使用します。